

Volunteer Seminar Journal

2020 Spring
ボランティアセミナージャーナル

Vol.15

イベントカレンダー

月	火	水	木	金	土	日
		4/1	2	3	4	5
6 グ13:00~ 17:00	7 グ11:00~ 15:30	8	9 グ11:00~ 15:30	10 グ13:00~ 17:00	11	12 ふらっと防災ツアー @仙台&名取
13 多16:00~ 15:30	14 16:30~	全てのイベントについて、 延期・中止の 可能性があります。 詳しくはHPをご覧ください。			18 日曜ボランティアツアー@石巻	19 丸森町ボランティアツアー①
20 SCRUM 震災伝承部 ワークショップ	21 多16:00~ 18:30	22	23	24	25 陸前高田ボランティアツアー①	26 福島県いわき市 ボランティアツアー
27 16:30~	28 SCRUM 人権共生部 ワークショップ	29 ふらっと防 @気仙沼	30	31	2 石巻ボランティアツアー	3 新歓薄磯例大祭ツアー
4 丸森町ボランティアツアー②	5 新歓薄磯例大祭ツアー	6 陸前高田ボランティアツアー②	7	8	9	10 新歓合宿

※新型コロナウイルスの感染拡大状況により、中止・延期となる可能性もありますので、ご了承ください。

ボランティアフェア

東北大学内外のボランティア団体の合同説明会！あなたにぴったりのボランティアが見つかるはずですよ。
「まずは話を聞いてみたい」「いろんな団体と比べ考えたい」という人にもってこいのイベントです！様々な活動を見て聞いて、視野を広げてみませんか？予約不要・途中入退場自由です！

場 所：東北大学附属図書館（1階グローバル学習室→グ 2階多目的室→多）

参加団体：東北大学たなぼた、アイセック仙台委員会、東北大学光のページェントNavidad、復興応援団、一般社団法人ワカツク、東北大学フェアトレード推進サークルamo、国際ボランティア団体AsOne、キッズドア東北、SCRUM、高校生支援団体bridge、東北大学地域復興プロジェクト"HARU"、反貧困みやぎネットワーク、東北大学特別支援学生サポーター、もしとさ、NPO 法人国際ボランティア学生協会、震災復興・地域支援サークルReRoots、TSALL東北、海辺のたからもの、NPO法人アスイク、NPO法人TEDIC

どこに行くか
迷ったらまずは
ここ！

スタッフ説明会+晩さん会

ボランティアツアーやスタディツアーの企画、ボランティアに参加したい学生やボランティアを募集する団体の支援を行う「SCRUM(スクラム)」の説明会です。学生スタッフが活動の紹介をし、ボランティアやボランティアコーディネートの魅力をお伝えします。

場 所：川内北キャンパスA棟・B棟間広場スペース集合

ボランティアツアー、スタディツアー

（課外・ボランティア活動支援センターが主催・共催しているもののみ記載）

東日本大震災や台風19号の被災地を訪れ、ボランティアや視察を行います。所属・学年問わずどなたでも参加いただけます。その他のツアーやイベントはP34、35をご覧ください。すべてのツアー・イベントの詳細や申し込み方法は、下記QRコードより、SCRUMのホームページでご確認ください。

公式サイトへはこちらからアクセス！
<https://scrum-tohoku-univ.jimdo.com/>



ボランティアへの
新たな一歩を
応援しています！



Pick Up! 表紙写真エピソード



ReRoots

東日本大震災で被災した農村地域でファミリー層を対象にしたサツマイモの生育・収穫体験企画“おいもプロジェクト”の写真です。地域の魅力を五感で体感できる企画となっており、収穫したサツマイモは加工してスイートポテトとして販売されます。

ワカツク

被災企業の復興の現状を知ってもらうため、名取市の地元企業をめぐるバスツアーを開催しました。大学生6名が参加し、老舗の酒造会社・佐々木酒造店を訪問。専務から、震災当時の様子や、仮設での酒造りの苦労や工夫などを伺いました。ワカツクでは、このように大学生が企業や仕事を知る機会を提供しています。



丸森町台風ボランティア

2019年、台風19号により被害を受けた丸森町でのボランティア活動の様子です。この日の活動では、土砂の中に埋もれた家財や衣服を探し、取り出しました。今もなお、台風の爪痕が残っています。



ボランティアフェア

春と秋の2回、東北大学附属図書館でボランティアフェアを行っています。東日本大震災の被災地支援、まちづくり、子どもの教育支援、環境活動、保全活動、国際交流など様々なボランティアを行う団体がブース出展し、写真のように活動紹介を行います。

INDEX

課外・ボランティア活動支援センターについて4

東北大学 SCRUMについて5

東日本大震災の概要と活動8

 岩手県での活動 10

 宮城県での活動 12

 福島県での活動 14

全国の災害被災地での活動 16

多様なボランティア活動 18

ボランティア団体の紹介 20

 震災関係 22

 国際 26

 教育・学習支援/貧困 28

 環境 31

 医療・福祉/地域支援 32

 キャリア・若者 33

ツアー・イベント情報 34

学生ボランティア支援に関するホームページやSNS

課外・ボランティア活動支援センター

https://www.ihe.tohoku.ac.jp/?page_id=7395

東北大学の学生ボランティア支援

<https://www.tohoku.ac.jp/japanese/studentinfo/studentlife/02/studentlife0210/>

東北大学ボランティア支援学生スタッフSCRUM

<https://scrum-tohoku-univ.jimdofree.com/>



@TOHOKU_VOL



@voltohokuuniv



課外・ボランティア活動支援センターについて

2011年の東日本大震災以降、東北大学では学生によるボランティア活動が活発に行われるようになりました。2014年に課外・ボランティア活動支援センターが発足してからは、被災地支援以外にも、様々なジャンルの学生ボランティア活動の総合的支援と、ボランティア活動を取り入れた授業(サービス・ラーニング)の開発・実施を行なっています。キャンパスを飛び出して、地域を知り、人と出会うボランティア活動は、様々な現代社会の課題を学びきっかけにもなります。課外・ボランティア活動支援センターでは、皆さんが実際にフィールドに出て活躍する場を提供していますので、ぜひ積極的に活用してみてください。

ボランティア活動に参加したい人へ

課外・ボランティア活動支援センターでは、皆さんが、ボランティア活動に参加したり被災地の現状を学ぶことができるよう、様々な支援を行なっています。自分の関心に合わせて、ぜひ参加してみてください!

- ① ボランティア・フェアに行こう! → p36
- ② ボランティアツアー・スタディツアー等に参加しよう! → p34,35
- ③ 学生ボランティア団体に入ろう! → p20~33
- ④ 学外のボランティア活動に参加しよう! → p20~33
- ⑤ ボランティアの企画運営やコーディネートをしてみよう! → p5~7
- ⑥ ボランティア情報メール配信サービスに登録しよう → 右のQRコードから!



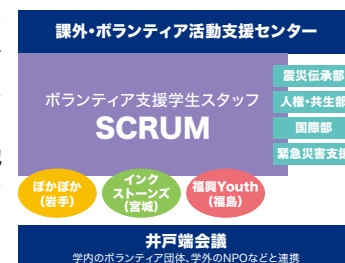
東日本大震災やボランティア関係の授業

課外・ボランティア活動支援センターでは、被災地等でのボランティア活動やフィールドワークを通して地域に貢献しながら学ぶサービス・ラーニング科目を開講ないし開講協力しています。授業を通して現場に飛び出し、一緒に学びましょう!

科目群	授業題目	担当教員	開講時期
基幹科目	社会の構造「東日本大震災からみる現代日本社会」	松原久、横関理恵	【2S,4S】月4
基礎ゼミ	共生社会に向けたボランティア活動—人権・多様性・エンパワメント	横関理恵	【1S】月5
	ボランティア活動を通して被災地復興の課題を学ぶ	松原久	【1S】木5
国際教育科目	「復興」を学際的に考える	窪俊一、芳賀満、邑本俊亮、松原久	【1S】月4
	課題解決型(PBL)演習A 「ボランティア活動を通して被災地復興の課題を学ぶ」	松原久	【2S,4S】木5
	課題解決型(PBL)演習A 「福島における人権保障と共生の課題—原発事故以降を生きる人々に寄り添う」	横関理恵	【2S,4S】金3
	「復興」を学際的に考える	邑本俊亮、芳賀満、松原久	【2S,4S】木3

東北大学 SCRUMについて

私たちはボランティアを「したい人」・「している団体」のそれぞれに向けた活動・企画を行う、課外ボランティア活動支援センターのボランティア支援学生スタッフです。また、充実した中間支援を行うため、自分たちも東日本大震災の被災3県や熊本地震・西日本豪雨・台風19号被災地でのボランティア活動を行うほか、被災地以外でのボランティア活動の展開も行っています。



▶ ボランティアコーディネート

ボランティアはしたいと思ってすぐにできるようなものではありません。SCRUMは、ボランティアをしたい人と人や、人と団体を繋ぐ「ボランティアコーディネート」をしています。ボランティアしたい人々に対してはボランティア活動の広報を行い、他のボランティア団体とは合同企画の実施や情報共有・連携を行っています。SCRUMはセンターと協力して、ボランティアフェアの運営や団体間交流会の実施、ボランティア情報を掲載する「ボランティアセミナージャーナル」の発行など、様々な形でボランティアの輪の拡大と充実を図っています。



テーマごとの活動 → p6

SCRUMには、活動地にこだわらず、特定のテーマについて学習して他の学生に伝え、問題解決のために活動するグループが3つあります。震災伝承部、人権共生部、国際部の活動については6ページをご覧ください。

東日本大震災被災地での活動 → p10~15

岩手県、宮城県、福島県での活動は10~15ページをご覧ください。

東日本大震災以外の被災地での活動 → p16,17

東北大学では、全国で起こった災害の被災地でも救援活動をしています。これまでの活動については16,17ページをご覧ください。



SCRUM直轄部

活動地を限定せず、それまでのボランティア活動の中で出てきた問題意識に対してテーマを設定し活動する「直轄部」の紹介です。それぞれのグループで勉強会や問題解決に向けた活動をおこなっています。

国際部

SCRUM国際部 (IDeS: International Department of SCRUM) は震災の記憶や被災地の現状を海外に発信していくため、留学生を対象にしたスタディツアーやワークショップを実施しています! 近年は宮城県南三陸町を拠点に活動しており、災害公営住宅でお茶会を開いたり、地域の保育所のお誕生日会に参加したりもしています。このような活動を通じて、被災者の方々と留学生の橋渡し役になれることも国際部の大きな魅力です! ぜひ私達と一緒に活動してみませんか?



▲南三陸町での震災スタディツアー



▲南三陸町の復興住宅でのお茶会

震災伝承部

震災伝承部は、様々な東北の被災地に赴き震災と向き合う事に焦点を当てて活動しています。9年前の悲惨な出来事を受け「2度と繰り返してほしくない、忘れないで欲しい」という想いを持たれている被災者の方が多くいらっしゃいます。昨年度は現地での視察やスタディツアー、ビデオを用いた勉強会やボランティア活動などを行いました。学び、向き合い、考え、共有し、地域の魅力に触れ、伝承する。そんなことに挑戦できる部です。



▲震災遺構旧大川小にて語り部の方の話を聞く様子



▲活動中の昼食で石巻の海の幸を堪能する様子

人権共生部

人権共生部、通称「ひととも」は、活動のテーマを震災に限定せず、普段の生活を送る上でなかなか話題に上がらない、でも知っておきたい人権問題について学ぶ場です。これまでジェンダー、ヘイトスピーチ、孤独死、子どもの貧困などを学びました。

「共に生きること」について議論をする勉強会を開催し、ボランティア活動を通して実践的に学びます。みなさんも、身近にある人権問題を私たちと一緒に考え、深めてみませんか。



▲ボランティア活動ふりかえり会(子どもの貧困)



▲勉強会(ALLY-ジェンダー)

SCRUM学生の体験談



経済学部2年
伊藤 朗

ほかほか

東北の地に来て、早一年。飛ぶ矢より速く感じたこの一年、私は主に岩手県陸前高田市で活動してきました。現地ではこの場では語る事が出来ないほど多くのことを体験しました。語るのには得意ではないので語るつもりはないですが、一言だけ偉そうに言わせてください。現地に行ってみてください。自分の目で見て、肌で感じたものに勝るものはありませんから。そして、体験したことを私に語ってください。待ってまーす。



▲公営住宅にてお茶ごと手芸

SCRUMでの活動を通して最も印象に残った活動は子ども食堂でのボランティアです。子ども達との交流を通して、子どもの貧困問題の実態に触れるだけではなく、一緒にご飯を食べたり遊んだりすることで私が彼らに与えられることは何だろうと、活動の意義を深く考えさせられる良い機会になったと思います。社会問題について知ることは文献を調べることでいくらでも可能ですが、そこから考えをさらに追及し発展させられるのが人権共生部の魅力です。新入生の皆さんにも、活動を通してぜひその楽しさを感じてほしいです!



医学部保健学科3年
礒部 理央

人権共生部



経済学部4年
和久 晋太郎

インクストーンズ
広島派遣担当

SCRUMの活動では災害の知識だけでなく、地域との関わり方や組織運営、様々な価値観など多岐にわたる経験・学びを得ることができます。特に災害で故郷を失った方々との会話は、私に地域コミュニティの力強さを訴えかけ、一生を通して大切にすべき価値観に気づかされました。SCRUMの活動やボランティア経験は皆さんの世界を広げて人生を深めるきっかけになるはずですよ。

被災者と支援者という関係ではなく、住民さんと人と人として楽しい時間を過ごして、住民さんが喜ぶ顔を見られたときはとてもやりがいを感じます。今まで出会えなかったような人・仲間たちと出会い、自分の世界を広げることができるのがSCRUMの魅力だと思います。もしボランティアに少しでも興味があったら、是非一緒に活動しましょう!

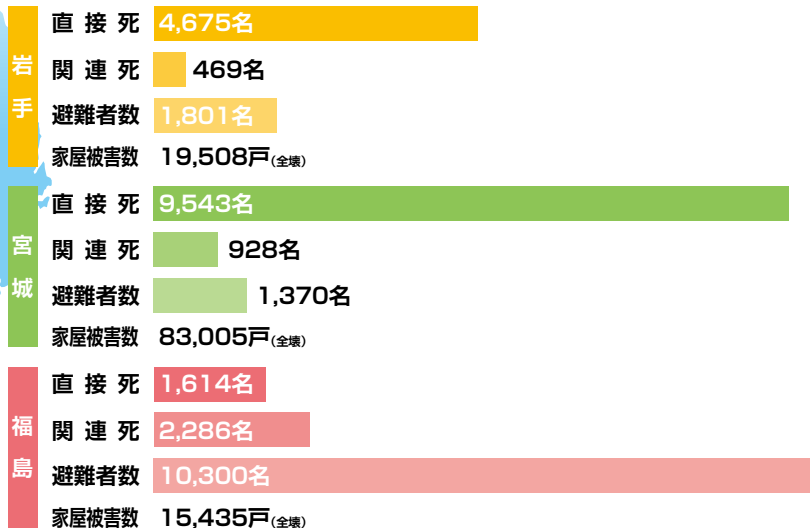


工学研究科修士1年
渡邊 勇

ほかほか

東日本大震災の概要

▶ 被害数(図)



【警察庁】平成 23 年(2011 年)東北地方太平洋沖地震の警察措置と被害状況(令和元年12月10日現在)
 (https://www.npa.go.jp/news/other/earthquake2011/pdf/higajokyo.pdf) 2020年2月6日最終閲覧
 【復興庁】東日本大震災における震災関連死の死者数(令和元年 9 月 30 日現在調査結果)
 (http://www.reconstruction.go.jp/topics/main-cat2/sub-cat2-6/20191227_kanrenshi.pdf) 2020年2月6日最終閲覧
 【復興庁】所在都道府県別の避難者数(令和2年1月14日現在)
 (https://www.reconstruction.go.jp/topics/main-cat2/sub-cat2-1/20200131_hinansha.pdf) 2020年2月6日最終閲覧
 ※避難者数は応急仮設住宅等及びそれ以外の賃貸住宅等に避難している方、親族・知人宅等に避難している方、病院等に避難している方の合計

2011年 3月11日 14時46分

三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の地震が発生し、最大震度7を観測しました。それに伴い起きた広範囲にわたる津波と、福島第一原子力発電所の事故は、9年経過した現在も被災した各地に影響を及ぼし続けています。

震災によって生まれ育った場所に帰ることができなくなったり、長期にわたる避難生活を強いられたり、地域に帰っても人の数や町並みが大きく変わって生活しにくくなっていたり、場所やモノだけでなく大切な人を失った経験を持つ人もたくさんいます。

それでも東日本大震災の被災地は、災害の発生から9年が経過し、少しずつ変化してきています。仮設住宅から災害公営住宅に転居した方々の移転先でのコミュニティ形成など、震災を機に顕在化した課題は多く、学生ボランティアがお手伝いできることや学ぶべきことがたくさんあります。

東日本大震災と私

東日本大震災に思い入れのあるSCRUMの学生に活動のきっかけや今の思いについて書いてもらいました。



理学部地球科学系2年
田中 駿介

インクストーンズ
震災伝承部

震災当時小学4年生だった私は、茨城県にいて、下校途中でした。まっすぐ立てないほどの揺れで、家に帰ると物は散乱し、電話もつながらず、テレビからは延々と津波の様子が流れていて、パニックになったのを覚えています。大学入学後、実際に何があったのか、今どういう状況なのか知りたいと思い、震災ボランティアを始めました。現地を自分の目で見て、話を聞き、仲間と活動することには、本や映像からは得難い価値があります。そうして得られた気づきや出会いに感謝し、自分たちに何ができるかを考え、活動を続けていきたいと思っています。

震災当時、私は小学6年生。福島県の内陸の方だったので、津波はなく、原発事故による避難もありませんでした。高校までずっと福島にいましたが、震災や原発事故についてはあまり関心がなく、実態についても詳しく知りませんでした。しかし、大学入学後、「福島にいたのに何もわからない、何もしてきていない」自分に耻ずかしさを感じ、今からでもできることがあるなら、と福島での活動を始めました。何が起きて、どんな人がいて、今どういう状況なのか。それを自分で知る事の大切さは、震災から9年経った今でも変わらないと思います。



教育学部4年
齋藤 美久

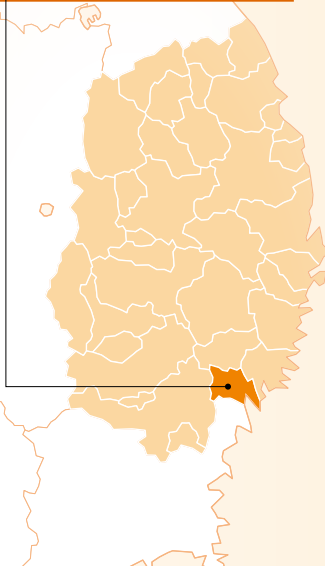
福興youth

岩手県

陸前高田市は岩手県で最も被害が大きく、中心部が13~17m以上の津波に襲われ、1,800名を超える方が犠牲になり、4,000戸以上の家屋が被災しました。ここでは、2012年から陸前高田市で活動を行っている「陸前高田応援サークルぼかぼか」について紹介します。

死者数(震災関連死含む)	5,144名
行方不明者数	1,112名
家屋倒壊数(全壊・半壊)	26,079戸

岩手県総務部総合防災室 令和元年11月30日現在



震災遺構「奇跡の一本松」



新たに苗が植えられた高田松原



建物が増えつつある高田町中心部



毎年8月にある「うごく七夕」祭り

復興の現状

仮設住宅

2,168戸建設された仮設住宅は、入居者は120世帯(2019年11月末現在)となり、2020年度には最終集約地の1ヶ所に集約される予定です。

災害公営住宅

市内の災害公営住宅はすでに11団地すべてで895戸が建設完了、そのうちの701戸に入居されています(2018年10月時点)。

街の再建

約10メートルのかさ上げ工事や高台造成が行われ、9年経った今も自宅再建が行われています。中心商業施設「アパッセ」の周りには段々と商店が増えてきています。

現地の方の話

陸前高田市の仮設住宅の最終集約地である滝の里仮設住宅の自治会長、貝山隆三さんにお話を伺いました。「滝の里仮設は2021年3月に閉鎖されるのでみんな引っ越してしまっただけで人があまり住んでいない。

住民どうして集まることもなかなかない。それに高齢の人が多くて若い人と会う機会がないから、大学生みたいな若い人たちが来てくれるのは新鮮。こうやって集まって話したりすると、頭の活性化にもなるね。」



貝山 隆三さん
(滝の里仮設住宅 自治会長)

活動内容

2020年3月までに計76回のツアーを実施し、現在は以下の三つを活動の三本柱として掲げ、活動しています。

①仮設住宅での寄り添い活動

災害公営住宅や自立再建した家に移り住む人が増えている一方、仮設住宅で暮らしている方も少なくはなっていますが、いまだにいらっしゃいます。私たちは足湯や手芸をしながらお話をするカフェ活動や料理企画を行い、そのような方々に寄り添う活動を行っています。

②災害公営住宅・集団移転地(高台)でのコミュニティ形成支援

災害公営住宅や高台に住んでいらっしゃる方々は、震災以前に住んでいた場所が様々で異なります。そのため、コミュニティ形成が課題となります。そこで、私たちはカフェ活動や料理企画等を企画・開催することで住民さんどうしが互いに顔を合わせて交流できる場を提供し、コミュニティ形成の一助となる活動を行っています。

③地域行事活動の支援

震災後参加者が少なくなった、陸前高田市の伝統行事「うごく七夕」や「虎舞」への参加や、NPO法人パクトが実施する子ども支援「みちくさルーム」のお手伝いなどを行っています。

メンバーの声

ぼかぼかのメンバーはとにかく陸前高田が好きです。何回も訪れるうちに愛着が湧いていきます。住民さんがとっても優しいので皆気がいたら陸前高田を好きになっています。高田には魅力がたくさんありすぎて、それを語るには与えられた余白が足りません。実際に行ってみるとわかります。ボランティアをする理由は人それぞれでしょうが、今の僕はほんのわずかでも自分の好きな陸前高田の役に立てたらという思いで活動しています。



法学部3年
由井 智樹



文学部2年
竹内 菜々子

大好きなぼかぼかのメンバーと大好きな陸前高田の住民さんと子供たちと一緒に活動する時間は私にとって本当に大切な時間です。入る前はこれほどボランティアに一生懸命になるとは思ってはなかったのですが、気づいたらこんなに好きになっていました。毎回新しい出会いがあって、いつもぼかぼかした気持ちになれます。それに、ボランティアをすることで新しい知識も身につく、今まで以上に深く震災や復興について考えることが出来るようになりました。これからも学びつつ、大好きな方達とぼかぼかした思い出をつくっていききたいと思います!

ツアーに参加した一般学生

米沢商会の建物を残して、沢山の重機が工事している光景を見ると、ここに町があったことが想像できないほどだった。語り部の方の話では、自分自身の防災意識の甘さを痛感させられた。また、実際の避難所のありありとした様子を知ることができたのも良かった。(理学部1年)



陸前高田について、ニュースや特集等で見る情報はありましたが、いまいちピンときていなかったのが、実際に目にしてみると復興がまだまだであることや、地元の雰囲気等もわかって、やっぱり目で見るとは大事だと思いました。(経済学部3年)

宮城県

東北大学の学生は、震災直後から宮城県各地で活発にボランティア活動を行ってきました。そのなかでも石巻市において、災害公営住宅でのコミュニティ支援活動や復興の現状・課題を学ぶスタディツアーなどに取り組む**東北大学インクストーンズ**の取り組みを中心に伝えします。

復興の現状(石巻)

石巻市は宮城県の中でも最大規模の被害を受けた地域です(直接死・関連死計3,552名^{※2})。最大で16,788人が入居したプレハブ仮設は、2020年1月17日に最後の入居者が退去し^{※3}、復興公営住宅の整備も2019年3月に完了しました。ここから住まいの視点からみると、復興は進んだといえます。石巻市では、震災後にボランティアやNPOによる活動が活発化しており、復興のモデルというべき取り組みも複数存在します。

その一方で住民生活の視点からみると、再建先の住まいでは、震災前/仮設住宅時代の生きがいやつながりを失い、閉じこもり傾向にある方が多くいらっしゃいます。とりわけ災害公営住宅では、一人暮らしの高齢者が多く、孤独死の発生が懸念されています。高齢化率の高さから、住民の力のみでコミュニティづくりを進めることも困難となってきました。

石巻市は2005年に大規模な自治体合併を経験したことで、行政によるきめ細やかな対応が困難になってきました。そのため石巻市のなかでも、とくに半島部に居住する住民からは、他の自治体や市内の他地域と比較して復興の「格差」を感じ、行政への不満や復興に向けた活動の無力感・困難さといった声があがる状況にあります。

※1-2宮城県ホームページ「復旧・復興の進捗状況」
-東日本大震災の地震被害等状況及び避難状況について より
<http://www.pref.miyagi.jp/site/ej-earthquake/km-higaiyozuyouyou.html>
(2020年1月23日最終閲覧)
※3石巻かほく2020年1月18日「プレハブ仮設 震災から8年10カ月、最後の世帯が退去 石巻地方1万戸整備」

死者数(震災関連死含む)	10,566名
行方不明者数	1,219名
家屋倒壊数(全壊・半壊)	238,135戸

2019年12月31日現在



震災の記憶を刻む、第二勝丸保存施設



市内新市街地で行なわれた、4年目となる夏祭り



市内中心部に建設された中層型災害公営住宅



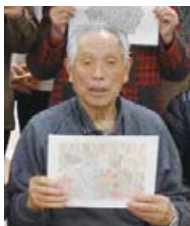
遺構としての保存が決まった、大川小学校跡地での語りべ活動

現地の方の話

震災から9年、10年という時間が経つと災害公営住宅において市からの補助金がもらえなくなり、集会所での集まりも減ってしまいます。そんな中継続的に支援してくれる学生の活動は本当に助かります。(門脇地区・本間英一さん)



津波が来た後、庭には車が3台流されてきて積み重なっていました。7月までは二階で避難生活を送り、その後仙台へと一時移り住みました。津波にのみ込まれてしまった勤務先の工場に戻ろうとしていたので、引き留めてくれた妻には感謝しています。今は、集会所での活動を毎回楽しみにしています。(吉野町災害公営住宅・岩井清一さん)



活動内容

月に1回の頻度で、宮城県石巻市で活動しています。主に災害公営住宅でのサロン活動と震災について学ぶスタディ活動を軸に行っています。

サロン活動では、足湯や手芸、ご飯企画などを通して、住民さんとお話したり、住民さん同士が交流する機会をつくらせて、リラックスして楽しめる場を提供しています。住民さんの声に耳を傾け、時に住民さんの悩みや不安に寄り添う傾聴活動をしています。また、夏祭りなどのイベント運営を手伝い、地域を盛り上げる活動もあります。

スタディ活動では、当時の被害の様子や今の町の状況について学ぶため、震災遺構や震災伝承施設を視察したり、語り部さんにお話を伺ったりしています。こうして学んだことをメンバー以外の学生と一緒に活動するツアーのなかで、伝えていく活動もしています。



▲サロン活動の様子

メンバーの声

私たちは活動の中で、東日本大震災で被害を受けた方に対し傾聴ボランティアを行なっています。何度も現地に赴くことで、その地域の住民さんや子供達とまるで親戚のような関係になれることはとてもやりがいがあることで、大学でしか経験できない体験であると思います。また、私はこれらの活動を通し、被災地の現状を知ることができるだけでなく、大学の講義ではできない、一から計画をして仲間と協力して企画を完成させる楽しさを知ることができました。私たちと一緒にボランティアをして、他のフィールドでは味わえない達成感を味わってみませんか。



工学部
材料科学総合学科2年
須藤 貴行



薬学部2年
深山 朗花

初めて活動に参加した際、初対面である私を住民さんたちが暖かく迎え入れてくださったことがとても印象的です。それをきっかけに、また会ってお話したい、と思うようになりました。また、同じツアーの際に訪れた波板地区もとても印象的でした。自然豊かで人の温かさを感じることで、言葉だけでは伝えきれない魅力のある場所だと思います。そんな石巻という地に行きたくて、活動を続けています。

福島県

東北大学では、2013年より福島県のいわき市や富岡町を中心にスタディツアーやボランティア活動を行っています。ここでは、県内の津波・原発事故の被害と復興の現状、ボランティアサークル「福興youth」の活動を紹介します。

死者数(震災関連死含む)	4,132名
行方不明者数	1名
家屋倒壊数(全壊・半壊)	98,218戸

福島県災害対策本部 2020年2月5日現在

浜通りの概況

2020年3月14日の常磐線開通後



避難指示が解除された富岡町。遠くに福島第二原発が見える



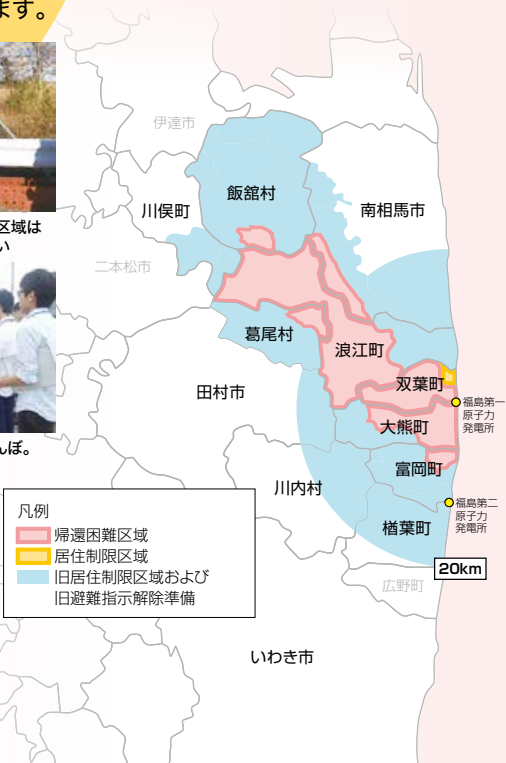
富岡町夜ノ森地区。帰還困難区域はバリケードで立ち入れない



いわき市永崎団地・下神白団地の秋祭り交流会の様子



楡葉町で新たに始まった田んぼ。収穫が近い



復興の現状

福島県は、地震、津波、原発事故の複合災害を被りました。2017年4月には、富岡町や浪江町等への原発事故に伴う避難指示が一部地域で解除され、2019年4月には、それまで全町避難が続いていた大熊町の一部で避難指示の解除が行われました。2020年3月14日には、震災以来9年間不通となっていたJR常磐線が全線再開し、「帰還困難区域」の一部において震災後初めて避難指示が解除されました。

しかし、依然として「帰還困難区域」は存在しており、県内外への避難者は4万人を超えます。様々な要因によって故郷に帰れない方も多く、また、故郷に帰らないという選択をされる方も多くおられるのも事実です。

現地の方の話

震災の時はいわき市小名浜の家で、高台のお寺へ避難しました。犬を飼っていたので車でしばらく過ごし、ペット可の借上げ住宅に入り、2015年に永崎団地に来ました。皆さんには、地震があったら「とにかく高い所へ逃げろ」と伝えたい。福興youthの学生が来てくれるのが本当に楽しみです。

(左) いわき市営永崎団地自治会長 藁谷鐵雄さん)

浪江町請戸地区の出身で、津波の被害に遭い、翌日には原発事故のため避難することになりました。最初は情報がなく、TVで避難指示が出ていることを知りました。原発事故さえなければ、次の日から復興に向けて動き出せたのです。今は永崎団地のお隣の下神白団地に住んでいます。

(右) 福島県営下神白団地会計 佐山弘明さん)

活動内容

主に福島県いわき市、富岡町で活動している団体です。活動内容としては、住民間のコミュニティ形成を図ることを目的にお茶会や手芸等を主催したり、伝統行事のお手伝いに参加したりしています。

福興youthの活動方針は以下の3つです。

住民の方の架け橋になり、コミュニティ形成を図る
変化していく福島に寄り添い、支援が必要な人の受け皿となる

●主に津波被災者が住む災害公営住宅「市営永崎団地」、隣接する原発避難者向け復興公営住宅「県営下神白団地」への定期的な訪問を活動の中心に据え、コミュニティ形成支援に取り組んでいます。具体的な活動としては、お茶会や手芸等を主催し、住民間・学生間の交流を行っています。夏には風鈴作りを企画したり、冬にはクリスマス会を企画したりしました。また、ホットケーキ作りなど子供向けの企画も行っています。

●いわき市薄磯地区で毎年行われる伝統行事「例大祭」への参加を通して、地域の伝統行事のお手伝いに参加しています。また、薄磯地区では学童への参加も行っています。

福島の今に触れ続け、発信していく団体となる

福島県の「いま」のお話を現地の視察を交えながら何うスタディツアーの企画運営を行っています。昨年は福興youthのメンバーのみならず、多くの東北大生が富岡町など、浜通りの市町村に足を運びました。



▲クリスマス会の様子

メンバーの声

僕が一番印象に残っているのは、薄磯地区の豊間しおかぜ児童クラブでの活動です。震災以前は豊間小学校があった場所に、今現在は中学校と保育園・学童保育が入り、保育園～中学校までが同じ場所で一貫して教育が行われている、ということでの子供たちを対象とした活動で、僕が参加したときは花火をテーマとした工作を行いました。子供たちの元気な姿に自然と笑顔になり、童心に戻って一緒に楽しい時間を過ごしました。「また行きたいな」と思わせてくれる楽しい活動でした。



理学部物理学科3年 浦山 廉



教育学部2年 日野原 柚葉

福興youthに入ったのは、せっかく東北大学に来たのでボランティアがしてみたいという漠然とした理由でしたが、復興の現状や放射線に関する知識、はたまたボランティアをするにもお金がかかることなど、たくさんを知ることができました。また、活動は泊りがけのことも多いのでメンバー同士が仲良くなれてとても楽しく、そうした意味でも福興youthに入るとよかったですと感じています。



全国の災害被災地での活動

東北大学では、東日本大震災での救援活動やボランティア経験を生かして、日本各地で災害が発生した際に情報収集・学生の派遣をし、救援活動をするとともに現地に東日本大震災の経験を伝えています。現地の大学や団体と協力し、数年にわたり活動を継続した地域もあります。

2018年 北海道胆振東部地震(北海道むかわ町)

2016年 台風10号(岩手県岩泉町)

2017年 (7月)豪雨(秋田県大仙市)

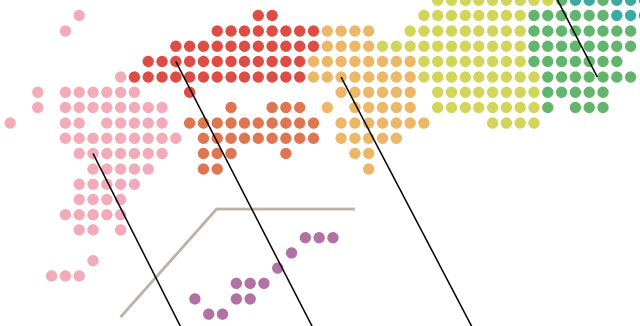
2015年 平成27年関東・東北豪雨(宮城県大崎市)

2019年 台風19号(宮城県丸森町)

2019年 台風15号・19号(千葉県鋸南町)



▲熊本地震被災地の仮設住宅での手芸の様子



▲広島県坂町の避難所での足湯

2018年 大阪北部地震(大阪府高槻市)

2018年 西日本豪雨災害(広島県東広島市・呉市・坂町)

2016年 熊本地震(熊本県益城町・熊本市・御船町)

宮城県丸森町での活動

2019年10月に日本列島へ上陸した台風19号は、日本各地に甚大な被害をもたらしました。とくに宮城県丸森町は、大雨による河川の氾濫、土砂崩れ等によって、甚大な被害が発生しており、現在でも仮設住宅や自宅二階等で避難生活を強いられる方が多くいらっしゃいます。

東北大学では、災害発生後間もない時期から、丸森町で継続的にボランティア活動を行なってきました。活動内容は、被災家屋での泥だしや家財の運び出しから、避難所・仮設住宅でのサロン活動、神社の復興支援に至るまで多岐にわたっています。

今回の災害では、大学からのボランティアバスが運行されたこともあり、普段ボランティア活動に参加しない学生も含め、200名以上が汗を流してきました。



▲丸森町での活動の様子

丸森町での活動体験談

昨年10月の台風19号災害から4ヶ月、宮城県内で一番被害の大きい丸森町に約40日赴き活動しました。家財出しや泥出しから避難所や仮設住宅での支援活動、災害ボランティアセンターの運営まで幅広く関わりました。地域の住民さんやボランティアの方達と想いを共有し、地域の復興復興を共に歩いていける事が一番のやりがいです。微力ですが出来ることはたくさんあります！

工学部電気情報物理工学科 3年
野村 俊介



千葉県での活動体験談

Gakuvo主催の台風15号緊急災害ボランティアに参加し、千葉県鋸南町で活動しました。1ヶ月以上経っているにも関わらずビニールシートが貼られていて、殺伐とした街の様子に驚きました。

その日は老夫婦の家のビニールハウス解体のお手伝いをしました。「皆さんのような若い人が来てくれたおかげでやる気が出た」と言ってくださったことに感動しました。災害ボランティアはソフト系ボランティアに比べて成果が見えやすいのが良い点かなと思います。

文学部 2年
高橋 瑞季



Pickup!
多様な
ボランティア
活動

**東北大学生は、災害ボランティア以外にも
 様々なジャンルの活動に参加しています。
 そのうち、国際系と環境系、子ども・教育系、
 キャリア系の活動をする学生の体験談を紹介します。**

国際系ボランティア活動

ボランティアを始めたきっかけ

大学生のうちに海外へ行って何か特別な経験をしてみたいと思っていました。そこで海外で活動を行っているAsOneに入りました。

活動の魅力

長期休暇中に行う海外建築ボランティアは、東南アジアの発展途上国で約2週間活動します。活動を行うのは普通の旅行では行けない場所です。そこで現地の人たちと一緒に活動をして、途上国の現状を知るとてもいい経験です。

そして何より家を完成させた時の達成感や喜びを皆で分かち合うのはかけがえのない思い出になります!!

新入生に一言

AsOneは海外での活動以外にもたくさんの活動があります!アクティブに色々なことをしてみたいという人はぜひ来てみてください!



▲カンボジアでの建築活動の様子



経済学部3年
 遠藤 諒平

国際ボランティア団体AsOne

環境系ボランティア活動

自然が好きで、植樹できるサークルって面白そう!とTSALLに入りました。植樹・育樹に留まらずに農業や林業にも足を踏み入れて、アクティブに自然に



▲千年希望の丘での植樹活動の様子

触れることもできるのが大きな魅力で、楽しみながら環境問題を知り、環境保全に貢献できることにやりがいを感じます。活動先で出会う方々との交流もとても貴重な経験です!



理学部地球科学系2年
 吉池 奏乃

TSALL東北

子ども・教育系ボランティア活動

震災系のボランティアをしていて、自分は子どもと関わるのが楽しく、子どもの居場所づくりができるTEDICに参加し始めました。

継続して定期的子どもたちと触れることで、できなかったことができるようになる姿がみれるので、とても面白いです。

新入生の皆さん!新しいことを大学生で始めるにはボランティアはうってつけだと思います!ぜひ一度でも参加してみたいかたがでしょうか!!!



▲クリスマス企画の準備をしている様子



法学部3年
 赤田 丞

TEDIC

キャリア系ボランティア活動

私は高校時代に自分が現在やっているような活動を体験して「自分も大学生になったら同じことをやりたい!」と思ったためこの活動を行っております。高校生の将来のために活動するという身近ですがとても重要なことを達成したときの満足感はとてもよいです。皆さんも是非見学に来てください!



▲活動の様子



法学部3年
 関野 准貴

高校生支援団体bridge



ボランティア団体の紹介

ここでは、東北大学内のボランティア団体や東北大学生も参加する学外のNPO法人等を紹介
します。4月のボランティアフェアでは、興味のある団体の説明が詳しく聞けますよ！

★連絡先等は各ページをご確認ください！

01	東北大学 インクストーンズ	震災 関係	学内	22p
02	東北大学ボランティアサークル たなぼた	震災 関係	学内	22p
03	東北大学地域復興プロジェクト HARU	震災 関係	学内	23p
04	東北大学 福興youth	震災 関係	学内	23p
05	東北大学陸前高田応援サークル ぽかぽか	震災 関係	学内	24p
06	震災復興・地域支援サークル ReRoots	震災 関係	学内	24p
07	東北大学災害伝承プロジェクト もしとさ	震災 関係	学外	25p
08	一般社団法人 復興応援団	震災 関係	学外	25p
09	国際ボランティア団体 As One	国際	学内	26p
10	東北大学フェアトレード推進サークル amo	国際	学内	26p
11	NPO法人 good!	国際	学外	27p

12	NPO法人 NICE	国際	学外	27p
13	NPO法人 アスイク	教育・ 学習支援	学外	28p
14	NPO法人 キッズドア	教育・ 学習支援	学外	28p
15	反貧困みやぎネットワーク	貧困	学外	28p
16	公益社団法人 チャンス・フォー・チルドレン	教育・ 学習支援	学外	29p
17	特定非営利活動法人 TEDIC	教育・ 学習支援	学外	29p
18	仙台自主夜間中学	教育・ 学習支援	学外	30p
19	NPO法人アイカス国際都市 仙台を支える市民の会 さっと日本語クラブ	教育・ 学習支援	学外	30p
20	あしなが学生募金事務局宮城ブロック	教育・ 学習支援	学外	30p
21	TSALL東北	環境	学内	31p
22	海辺のたからもの	環境	学内	31p
23	宮城県青年赤十字奉仕団	医療・ 福祉	学外	32p
24	東北大学光のページェントNavidad	地域 支援	学内	32p
25	高校生支援団体 bridge	キャリア ・若者	学内	33p
26	一般社団法人 ワカツク	キャリア ・若者	学外	33p



01 東北大学 インクストーンズ



震災関係 学内

私達インクストーンズは、宮城県石巻市を中心に活動する団体です。月に一度復興公営住宅へ赴きサロン活動を通してお話を伺ったり、震災遺構を訪ね震災がどのようなものであったか学んだりしています。また学生という立場を生かし、地域のコミュニティ形成や、限界集落の町おこし等の手助けもしています。上記の二つの活動を私達メンバーだけでなく、ツアーを組み一般学生も交えて行うことで被災地のことを知ってもらいたいと頑張っています。住人さんと関係を築き笑顔届けたい、震災について学びたいあなた、お気軽にご連絡ください！



代表: 笠原 沙織 (経済学部2年) | E-mail:tohoku.inkstones@gmail.com

02 東北大学ボランティアサークル たなぼた



震災関係 学内

たなぼたは2016年度の基礎ゼミ受講生が作った団体です。石巻市や仙台市の東日本大震災の被災地域に出向き月に1度ずつお茶会を通してそこに住む住民と交流しています。近年はメディアでもあまり取り上げられなくなり、東日本大震災のボランティアニーズがなくなってきていると思われる。しかし、今なお多くの課題が残されています。やはりまだ多くのボランティアが必要です。大学や日々の生活の中だけでは学べないことがボランティアには多くあると思っています。ぜひ私たちと一緒に多くの経験を得ましょう！



代表: 宇津 敬祐 (教育学部3年) | E-mail:tanabotatohoku6@gmail.com

03 東北大学地域復興プロジェクト HARU



震災関係 学内

HARUは、東日本大震災からの復興支援・地域再生を目的として2011年3月に結成された団体です。被災地内外における多様なニーズに対応するため、2017年1月に活動拠点を軸とした「石巻部門」と「山元部門」という部門制にし、現在まで宮城県のこの2つの地域で定期的な活動を継続しています。石巻市では主に傾聴を中心としたお茶会の活動、山元町では地域おこしのイベントの企画・実施援助等を行なっています。人と話すのが好きな人、子供と触れ合いたい人、被災地のこれからを考えたい人は一緒にHARUで活動してみませんか？



代表: 吉田 匡孝 (理学部数学科3年) | E-mail:koho@haru-tohoku.org

04 東北大学 福興youth



震災関係 学内

主に福島県いわき市、富岡町で活動しています。「住民の方の架け橋になり、コミュニティ形成を図る」「変化していく福島に寄り添い、支援が必要な人の受け皿となる」ことを活動理念に掲げ、お茶会や足湯、手芸を介した傾聴を軸とする心のケアや、地域の伝統行事の手伝いをするボランティアツアーの企画運営をしています。また、「福島の今に触れ続け、発信していく団体となる」ことを目指し、福島の「いま」のお話を現地の視察を交えながら何うスタディツアーの企画運営も行っています。興味のある方、ぜひお待ちしております！



代表: 大内 拓己 (文学部2年) | E-mail:fukkoyouth.tohoku.univ@gmail.com

05 東北大学陸前高田応援サークル ぽかぽか

震災関係 学内



私たち「ぽかぽか」は、岩手県陸前高田市で活動している団体です。仮設住宅や災害公営住宅を訪問し、足湯・手芸カフェを開催したり、たこ焼きパーティーなどの料理企画を行ったりしています。また、地域の要望に応じて伝統行事の「うごく七夕」や「虎舞」のお手伝いをしたり、子どもたちを集めて勉強やお楽しみ会をしたりしています。月に一回程度これらのボランティアツアーを開催しているので、ボランティアに興味がある方や陸前高田について知りたい・行ってみたいという方はぜひ参加してみてください！一緒にぽかぽかしましょう～



代表: 竹内 菜々子 (文学部2年) | E-mail:tohoku.poca2@gmail.com

06 震災復興・地域支援サークル ReRoots

震災関係 学内



ReRootsは東日本大震災で被災した仙台市若林区で復興支援・地域おこしを行う団体です。若林区は古くから農業が盛んで農村文化が息づく地域でしたが、震災により過疎化・高齢化が進み衰退の一途をたどっています。そのような状況でも復興へ立ち上がる住民の力になり、地域のつながり・文化を守るため、私たちは農家や自らが作った野菜の販売、稲わらを利用した作品の制作、戸別訪問を通した福祉活動など幅広い取り組みを行っています。被災地の今後を一緒に考えていきませんか？HPやSNSにて日々の活動の様子を発信しています！



代表: 富田 慎吾 (工学部2年) | E-mail:reroots.mikan@gmail.com TEL:022-762-8211

07 東北大学災害伝承プロジェクト もしとさ

震災関係 学外



もしとさは東北大生が主体の防災団体で、東日本大震災の被災者の体験や教訓、想いなどを伝えていくために、高知県危機管理部や高知大生と連携して南海トラフ地震で被害が想定されている高知県で防災活動をしています。宮城県内でも講師を招いた研修会を行い、防災イベントへ参加する予定です。一緒に防災始めてみませんか？



代表: 辻 壹万 (経済学部3年) | E-mail:moshitosa.vol.tohoku@gmail.com

08 一般社団法人 復興応援団

震災関係 学外



主に南三陸町と多賀城市で、地元の人を中心となる復興の実現に向けて活動しています。南三陸町では地元の担い手を応援するツーリズムプロジェクト。多賀城では毎月広報紙を作成・配布し、コミュニティ作りのお手伝いをしています。最近、台風で多大な被害を受けた丸森町にもボランティアを派遣しています。



代表: 佐野 哲史 | E-mail:dangakusei@gmail.com TEL:0226-25-9897



09 国際ボランティア団体 **As One**



国際 学内

AsOneは「海外支援」と「東北支援」の両方に取り組むことのできるボランティア団体です。海外支援では、長期休暇を利用して発展途上国に赴き、約2週間で家を建てるボランティアをします。家の建築ボランティアなんて、大学生でしかできない経験ですよ！東北支援では、石巻市の復興祈念公園での植林活動や、子供たち向けのイベントのお手伝いをしています。また、被災地の現状を学ぶスタディツアーも行なっています。AsOneはメンバーの仲がとてもよく、家族のような居場所ですので、興味のある方はどなたでもWelcomeですよ！



代表: 遠藤 諒平 (経済学部3年) | E-mail: tohoku_asone2013@gmail.com

10 東北大学フェアトレード推進サークル **amo**



国際 学内

私たちamoはフェアトレード活動の普及を推進する活動をしています。具体的には、昼休みの時間を利用した勉強会や、大学祭・市内のイベントなどでフェアトレード商品の販売を行っています。日本のフェアトレードの認知度は他の先進国と比べてもまだまだ低いいため、今後もフェアトレードの認知度の向上を目指して努力していきます。



大学入学後、2年間amoのメンバーとして推進活動を続けることによって、国際問題をより身近に感じることができるようになりました。皆さんもお買い物を通じて国際協力してみませんか？

大友 裕太 (経済学部3年)

代表: 大友 裕太 (経済学部3年) | Email: amo.fairtrade.tohoku@gmail.com

11 NPO法人 **good!**



国際 学外

good!は、若者のきっかけづくりを応援しています。活動の中心は、ワークキャンプという合宿型のボランティア。スリランカやタイの村でホームステイをしながら、井戸掘りや道路建設などのワークを行います。村人との深い交流も魅力で、名前も知らなかった村にもう一つの大切な家族ができます。スタッフ同行のため、初海外、初ボランティア、一人参加や英語が苦手な方でも安心して参加できます。



代表: 磯田 浩司 | E-mail: info@good.or.jp TEL:03-3973-1631

12 NPO法人 **NICE**



国際 学外

国内・海外ボランティア活動を行うNICEは1990年設立。約90か国でワークキャンプ等の各種事業を実施。日本で唯一(国際NGOの日本支部を除く)、国連・CCIVSに加盟、世界トップクラスのネットワークを持っています。日本全国・世界各地の人々とともに、多様な生態系・文化・個性が生き生きと友好共存する地球社会を開拓しています。



代表: 開澤 真一郎 | E-mail: info@nice1.gr.jp TEL:03-3358-7140

さっそくどこかの団体の
イベント・活動に参加してみたい!
そんな時は



34・35Pを
参照

13 NPO法人 アスイク

教育・学習支援 学外



生活保護などを受給する困窮世帯の小学生～高校生年代を対象に、県内35カ所で放課後の時間を利用し、無料の学習支援を行っております。宿題のサポートや話し相手になる等、様々な活動を通じて一緒に子どもの将来を考えていきます。在籍するボランティアの年齢や所属は様々で、多様な視点から子ども達の支援を行っています。



代表:大橋 雄介 | Email:naomi_sato@asuiku.org TEL:070-5626-1538

14 NPO法人 キッズドア

教育・学習支援 学外



経済的に苦しい家庭、ひとり親家庭、震災のダメージを受けた家庭の中高校生などへ、学習支援や体験活動を提供しています。無料学習会では、一人ひとりに寄り添いながら学習サポートします。時には一緒に将来の進路を考えたり、親子関係・友人関係の悩み相談に乗ることもあります。学力とソーシャルスキルを身につけ将来社会で活躍できるよう支援しています。



代表理事:対馬 良美 | Email:tohoku@kidsdoor.net TEL:022-354-1157

15 反貧困みやぎネットワーク

貧困 学外



反貧困みやぎネットワークは貧困・労働問題を解決するために活動しています。労働・生活相談や「大人食堂」の活動を通じて現場の支援に取り組み、当事者への実態調査活動などを通じて問題の社会的な発信、政策提言を行います。関心があればどんな人でも参加可能です。支援に必要な知識の勉強会や貧困・労働問題の学習会も行っています。ぜひ一緒に貧困・労働問題に取り組みしましょう。



代表:菊池 修(弁護士) | Email:hhmiyaginet@gmail.com TEL:090-5153-7792

16 公益社団法人 チャンス・フォー・チルドレン

教育・学習支援 学外



東日本大震災で被災した家庭を中心に、経済的な困難を抱える子どもたちに対して、学習塾や習い事、体験活動等で利用できるスタディクーポンを提供しています。大学生ボランティアは、月に一度の電話や面談を通して、クーポン利用に関するアドバイスや進路・学習相談を行い、夢に向かって頑張る子どもたちのお兄さん・お姉さんとして伴走する大切な存在です。例年、4月にボランティア募集を行っておりますので、興味のある方は4月中にお問い合わせください。



代表:今井 悠介、奥野 慧 | E-mail:brosis@cfcc.or.jp TEL:022-265-3461

17 特定非営利活動法人 TEDIC

教育・学習支援 学外



石巻で不登校や家庭状況等の困難を抱える、子ども・若者支援の団体です。東北大学の学生も活躍中!自分のスキルや経験を活かし子どもに関わりたい人、ぜひ一度体験に来てください!

[活動例] ●子どもたちの第3の居場所づくり ●SNS等で活動を発信
●子ども向けにキャンプ等のイベント企画 ●子ども向け学習教材の作成
詳しくはHP、SNSをご覧ください。



代表:門馬 優 | E-mail:office@npo-tedic.net TEL:0225-25-5286

どの団体に参加するか迷っている…
興味を持った団体の話を
もっと聞いてみたい!
そんな時は



36Pを
参照

18 仙台自主夜間中学



教育・学習支援 学外

仙台自主夜間中学では、病気や家庭の事情で、小・中学校に満足に通えなかった方や不登校・ひきこもりなどで学校に通えなかった方などが学んでいます。2014年11月に開講し、現在では、水曜日の昼・夜、金曜日の夜に仙台市内で教室を開き、10代～90代まで約50名が楽しく学んでいます。現在、東北大学3年生の4名が活動し、学習者に寄り添っています。後継の学生ボランティアを大募集中です。



代表: 中澤 八榮 | Email: sendai.yakan@gmail.com TEL: 080-9016-6322

19 NPO法人アイカス国際都市仙台を支える市民の会 さっと日本語クラブ

教育・学習支援 学外

「さっと日本語クラブ」は、外国に由来を持つ小・中学生のための日本語講座です。来日したばかりの子や、言葉の問題で学校の勉強が難しい子に日本語を教えます。活動は青葉区中央市民センターで土曜日の午前です。子供達の生活がより充実するよう、スタッフ一同奮闘中です。興味のある方はぜひ一度見学にいらしてください。



担当者名: 河田 文子 | Email: npo.icas@gmail.com TEL: 090-6253-9684

20 あしなが学生募金事務局宮城ブロック



教育・学習支援 学外

私たちは教育機会均等のため、日本とアフリカの遺児と親が障がいを抱える子ども達の奨学金を集める街頭募金を行っています。毎年4月と10月の各4日間活動しており、そのための事前準備も学生主体で行っています。1人でも多くの遺児が安心して進学できるよう、お力を貸してください! ご連絡お待ちしております!



東北大学担当: 有住 龍星 | Email: maruanomiyagi@gmail.com TEL: 022-797-2418 (東北担当職員 中村)

21 TSALL東北



環境 学内

TSALL東北は、植樹・育樹活動をはじめ、様々な環境保全活動に取り組んでいます。月に1, 2 回程度、環境保全のボランティアに参加する傍ら、ミーティングでは環境問題についての勉強会も行なっています。あなた自身の手で、かけがえのない自然と一緒に守っていきませんか? 皆様のご参加お待ちしております!



自然が好きで、植樹してみたい!とTSALLに入りました。植樹・育樹の他、農業や林業も体験でき、楽しみながら環境問題を知り、環境保全に貢献できることにやりがいを感じます。活動先の方々との交流もとても貴重な経験です!

吉池 奏乃(理学部2年)

代表: 関塚 亮(法学部3年) | E-mail: tsall.tohoku@gmail.com TEL: 080-4130-5810 (連絡担当: 吉池)

22 海辺のたからもの



環境 学内

環境保全と、震災からのまちづくりを行っています。津波被災地の荒浜等で住民やボランティアさん方とプラスチックごみを拾い、プラスチックごみから素敵なアクセサリを作り販売しています。



子どもたちとアクセサリをつくるイベントが年間50件ほどあります。また今年の7月には起業して荒浜でカフェを行います。被災地から次世代のまちづくりを行う拠点として育てていきます。活動自体は多く重いテーマが多いですが、数ヶ月に1度～週3回まで、各々自分のペースで興味がある内容に関わっています。今仙台で1番勢いのある?団体です。



代表: 畠山 紳悟(工学部4年) | E-mail: umibenotakaramono@gmail.com TEL: 080-1827-1538

23 宮城県青年赤十字奉仕団

医療・福祉 学外



私たち宮城県青年赤十字奉仕団は、日本赤十字社の指導の下、ボランティアをしています。活動は献血推進、高齢者施設や乳児院への訪問です。献血推進活動では、夏と冬に商業施設に献血バスが来る際に、学生主体で呼びかけをしたり、月に1度市内の献血ルームでも呼びかけをしています。ぜひ私たちと一緒に活動しましょう！



副委員長: 藤田 隆之介 (経済学部3年) | E-mail: mygsihu@gmail.com

24 東北大学光のページェントNavidad

地域支援 学内

冬の仙台を60万の電球が鮮やかに彩るSENDAI光のページェント。その運営は社会人と大学生のボランティアで成り立っています。わたしたち大学生は、「サンタの森の物語」と呼ばれるしたくさんの団体が参加するパレードを運営したり、「おもてなしステーション」と呼ばれる案内所でリーフレットの配布やグッズの販売を行ったり、街頭で募金活動などを行っています。イベント期間以外は広報活動や企画の話し合いを行っています。社会人の方や他大学の学生といっしょに、大きなイベントを運営する達成感を味わうことができます。



代表: 尾田 恵 (経済学部3年) | E-mail: ngscqngscq@icloud.com TEL: 090-2038-9061

25 高校生支援団体 bridge

キャリア・若者 学内



私たちbridgeは「高校生に“架け橋”を」という理念のもと、大学生のリアルな姿に触れることで多様な人生観を知り、将来を見つめなおす手がかりを得てほしいと考えています。高校生1人1人がより一層輝ける未来、そんな未来への“懸け橋”となることを目指して私たちは活動しています。



bridgeに入ったのは私が高校時代に同様の活動を体験し、感銘を受けたからです。高校生支援の企画を通じて高校生が夢や目標を見つけて行動に移している姿を見ると本当にやってよかったなというやりがいが生まれます。

関野 准貴 (法学部3年)



代表: 関野 准貴 (法学部3年) | Email: bridge.univ.tohoku@gmail.com

26 一般社団法人 ワカツク

キャリア・若者 学外



学生の「何かしたい」想いを、震災復興や課題解決に取り組む企業・団体に繋ぎ、サポートしています。魅力的な地域企業や社会人を取材・発信する「いぐるる仙台」、学生団体の活動を紹介する「東北1000プロジェクト」など、独自に運営する事業もあります。ボランティアや課外活動を自身のキャリアに繋がたい方はぜひ相談を！



代表理事: 渡辺 一馬 | Email: musubaru@wakatsuku.jp TEL: 022-721-6180

※新型コロナウイルスの感染拡大状況によっては、いずれも中止・延期になる可能性があります。

ツアー・イベント情報

岩手

陸前高田ボランティアツアー

4月18日(土)~19日(日)、5月5日(火)~6日(水)

主催:東北大学陸前高田応援サークルほかほか

共催:課外・ボランティア活動支援センター

宮城

若林区新歓ツアー

4月11日、18日、25日、26日、29日、5月2日、3日、4日、5日、6日、9日、10日

主催:震災復興・地域支援サークルReRoots

お茶会in石巻市復興公営住宅

4月12日(日)

主催:ボランティアサークルたなぼた

ふらっと防災ツアー@仙台&名取

4月12日(日)

主催:東北大学災害伝承プロジェクトもとさ、SCRUM震災伝承部

日帰りボランティアツアーin石巻

4月18日(土)

主催:東北大学インクストーンズ 共催:課外・ボランティア活動支援センター

丸森町ボランティアツアー

4月19日(日)、5月4日(月)~5日(火)

主催:いぐもり学生ネット、被災地に学ぶ会

共催:TSALL東北、たなぼた、SCRUM、課外・ボランティア活動支援センター

お茶会in仙台市公営住宅

4月26日(日)

主催:東北大学ボランティアサークルたなぼた

ふらっと防災ツアー@気仙沼

4月29日(水・祝)

主催:東北大学災害伝承プロジェクトもとさ、SCRUM震災伝承部

石巻ボランティアツアー

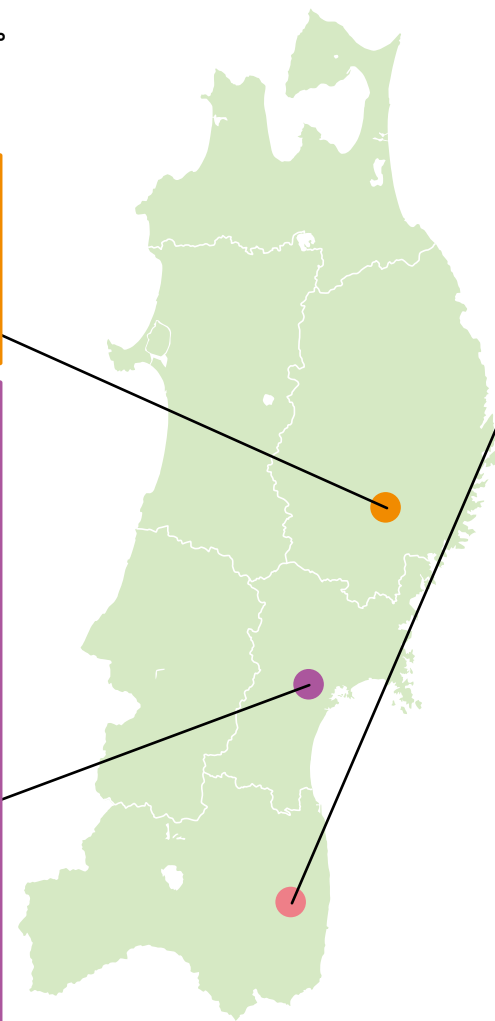
5月2日(土)~3日(日)

主催:東北大学インクストーンズ 共催:課外・ボランティア活動支援センター

春の遊び隊@山元町

5月3日(日)、4日(月)

主催:東北大学地域復興プロジェクト”HARU”



福島

福島県いわき市ボランティア新歓ツアー
4月26日(日)

新歓薄磯例大祭ツアー

5月3日(日)~4日(月)

主催:東北大学福興youth

共催:課外・ボランティア活動支援センター

それ以外の活動

【ミーティング体験・説明会】

SCRUM国際部 新歓説明会・ワークショップ

4月17日(金) 18:00~19:30

主催:東北大学SCRUM 国際部

ひとつも勉強会

4月17日(金)、28日(火) 18:15~20:00

主催:東北大学SCRUM 人権共生部

SCRUM震災伝承部ワークショップ

4月20日(月)~22日(水) 16:30~18:00

主催:東北大学SCRUM 震災伝承部

【その他】

「大人食堂」から考える、大人の貧困問題。現場から貧困問題を考える
4月12日(日) 15:00~

主催:反貧困みやぎネットワーク

外国人労働者の権利を守ろう!

外国人労働問題の第一線で活躍する人権派弁護士の活動から考える
4月17日(金) 18:00~

主催:反貧困みやぎネットワーク

【お花見・ご飯会など】

お花見!たなぼた主催

4月17日(金)TOEFL後

たなぼたお菓子会、ごはん会

4月17日(金)、22日(水)、23日(木)

主催:ボランティアサークルたなぼた

お花見!Reroots主催

4月12日(日)、19日(日)

主催:震災復興・地域支援サークルReoots



最新情報や詳細の内容、申込方法などは課外・ボランティア活動支援センターボランティア支援学生スタッフSCRUMのホームページをご確認ください。
(<https://scrum-tohoku-univ.jimdo.com/>)